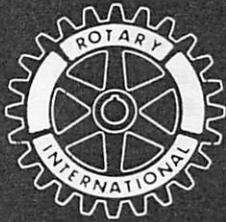


THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや
ちくさ

題字 黒野貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 ☎763-5110
会長 秋山茂則
幹事 和田正敏
会報委員長 佐野寛

No. 40

自分を越えた眼を

LOOK BEYOND YOURSELF

1991~92年度 RI会長 ラジェンドラ・K・サバー

第478回例会 平成4年5月12日(火) 晴

- ◇ “君が代”
- ◇ “我等の生業”
- ◇ 出席報告

会 員 68(65)名 出席 48名
出席率 73.85%
前 回 4月21日(修正出席率) 96.83%

- ◇ ビジター紹介 7名

- ◇ お誕生日祝福

足立夫人(4/16)、菅原君(5/4)、小山君(5/15)
太田君(5/15)、西野夫人(5/16)

- ◇ ニコボックス

秋山 茂則君 久しぶりの笑顔。
和田 正敏君 新入会員、今西君、長門君を
迎えて。
長門 保明君 お仲間に入れていただきます。
山本 眞輔君 地区協議会(5/9) 西尾KIRARA
認証状伝達式(5/10)に出席、勉強させていた
だきました。

鈴木 理之君 水野民也さん先日は楽しい一
刻ありがとうございました。奥様によろしく
お伝え下さい。

堀江 宏輝君、水野 民也君、上野 保君
お久しぶりですね。

佐久間良治君 久しぶりです。小杉君、竹内
君、色々ありがとうございました。

菅原 宣彦君、小山 雅弘君、太田 茂君
誕生日祝い。

足立 一成君、西野 英樹君 夫人誕生日祝い。
加藤 大豊君、黒須 一夫君 結婚記念日祝い。

- ◇ 和田幹事報告

1. 名古屋北RCより写真展(5/28~6/4 丸栄ス
カイル9F)のご案内が来て居ります。どう
ぞお出かけ下さい。
2. 次回例会終了後、歴代会長会を開催致しま
すので、歴代会長の方はお残り下さい。
3. ロータリーの友5月号が来て居りますので、お
帰りにお持ち下さい。

◇ 新入会員紹介



氏 名 今西 幸一君
生年月日 昭和29年10月13日
事 業 所 有限会社 フェニックス
三重県桑名郡長島町福吉117
TEL 0594-45-0211

地 位 代表取締役
自 宅 千種区御棚町306
推 薦 者 池田 隆
職業分類 自動車販売
委 員 会 親睦活動



氏 名 長門 保明君
生年月日 昭和6年12月1日
事 業 所 (財)愛知厚生年金会館
千種区池下町2-63
TEL 761-4181

地 位 館長
自 宅 千種区西山元町2-10
メゾン池下4F7
推 薦 者 和田正敏
職業分類 福利施設
委 員 会 親睦活動

◇秋山会長挨拶

細川氏の宣言

「自由社会連合」結党宣言と題した細川氏(元熊本県知事)の論文が文春の6月号に発表された。「日本の最大の危機は、政治が内外の激変に対処する意志と能力を失ったことである」「冷戦の遺物としての「保革対立」体制、既成政党の離合集散による「保革再編成」では、この危機を打開することはできない」「唯一の選択肢は、新党を結成して有権者の半数近い「支持政党なし」層の要望に応えることである」「あげるべき時に声をあげなかった、わが祖父・近衛文麿の悲劇に、深く学びたいと思う」論文冒頭に以上四項目のここに至る動機、理由を掲げている。本文では、国際情勢がかつてない激動に見舞われているなかで、日本の政治状況は、幕藩体制下の鎖国のなかに、惰眠をむさぼっていた幕末の状況と酷似している。日本が直面している最大の危機は、日本の政治が自ら課せられた責務をまともにとらえていないことにある。古い集権的国家システムの上に貝殻のようにへばりついた既成の政治体制は、国民の大多数が求めている真にゆたかな生活の実現と、国際社会との共存共栄でできる新しい社会体質への転換を妨げている最大の構造障壁である。この最大最強の構造障壁を解体し、新しい分権的、開放的な国家システムを創造するための抜本的な政治改革を断行しない限り、20世紀末の世界史的転換に対応することはできない。このような改革のためには、「保革対立」構造を超える第三の道、新しい政治理念と広い国際的視野、清新な政治的リーダーシップをもった新しい政治集団の結成以外には最早残された道はない。新しい選択と決断のためにわれわれの世代に残された時間はあまりない。——と危機感の中での決断の意志を述べている。そして新党は5つの基本目標を掲げている。①立法府主導体制の確立・現在の議院内閣制の在り方を再検討し、立法府主導の議会民主制の本来の機能を回復させる。②生活者主権の確立と選択の自由の拡大・生活者の主権と選択の自由を制限する過度の許認可等の政府規制を撤廃して、市場メカニズムとこれを適切に補完する地方および国の公共システムに委ねる。③地方分権の徹底・追いつき型近代化の過程で、過度に集権化し、肥大化してしまった中央政府の行政機能を真に必要な部分に集中し、効率化する。④異質・多様な文化の創造・強い個性を持った異質・多様な文化の創造・異質なものに対する理解と寛容を基本とする文化行政に転換する。⑤世界平和へのイニシヤチブ・戦争放棄を全世界共通の理念とすべく平和憲法の理想を高く掲げ、今世紀末までの核兵器・生物

兵器・化学兵器の全廃と全面軍縮をめざして積極的イニシヤチブを發揮する。——そして政策プログラムとして①地球環境問題への貢献②開放経済の促進③平和外交の主導④政治改革の断行⑤行財政の改革⑥21世紀のための教育革命——を掲げております。最後に、「多くの国民が、政治に背を向けかけている今日の日本の政治状況だからこそ、政治の本道を求めて、声をあげることに意味があるのではないか。私は小手先のことなど考えていない。与野党すべての既成政党を頭越しにした新党結成は、これまでの「政治の常識」からすれば、途方もない書生論だと笑われよう。しかし「日本の常識」が「世界の非常識」とさえ言われ始めている今こそ、「政治の常識」に反する書生論が必要なのである。私の新党結成の提案に賛同される方は、私と同じように声をあげ、是非私と行動を共にしていただきたい。勿論、日本の政治の変革が一度や二度の試みで成就するほど簡単なものではないことは、私も充分過ぎる程承知している。しかし日本の将来を思うとき、私は自ら大海の捨て石になることを恐れない。」と強い決意と多くの人々の共鳴と賛同を訴えています。現今の政治経済界の汚濁をまのあたりにしている多くの国民は諸手をあげて賛意を示すことでしょう。

(文春6月号より)

~~~~~第2760 地区協議会報告~~~~~

於 5月9日(土) ホテルナゴヤキャッスル

会長幹事部会

山本 眞輔君

「まことの幸福は人助けから」と言うテーマのもとに、午前中は本会議、午後は分科会(9会場)と全体会があり、充実した一日でした。全部で71クラブが参加(1081名)、西尾KIRARAを加えると72クラブとなり、大盛況の協議会でした。千種クラブからは、大谷君をはじめ10名が参加いたしました。私は午後からは第1分科会(会長、幹事部会)に出席しましたのでその報告をします。

ガバナーノミニーの神戸政治氏をリーダーとし、アドバイザーにパストガバナーの近藤友右衛門氏他4名、アシスタントリーダーに鈴木孝則氏他4名の参加で、たっぷり2時間以上、勉強させていただきました。第1分科会は次期会長、幹事を対象でしたので「まことの幸福は人助けから」という次年度のテーマの解説はもとより、特にリーダーとしての心得、責務について、出席者より意見発表、指導がありました。リーダー会議委員会の委員長、岡本氏からはRCは人材集団であり、その中のリーダーシップの重要性等をいろいろ

な例をあげて説明がありました。副委員長の稲垣氏からはクラブ運営について、新入会員の指導、家族会等につき「分科会資料」を中心として説明がありました。アシスタントリーダー諸氏からも各々の立場でクラブ充実のために意見が述べられました。講評では、伊藤氏より各クラブの特色がほしい、会長のカラーを出して下さいという強い要望がありました。最後に90余才になられる近藤パストガバナーよりRCの目的を再確認し、RCの原点にもどって活動してほしいという要望があり、それをしめくりとして第1分科会が終了しました。そのあと全体会、次期ホストクラブの発表、ロータリーソング「手に手をつないで」の1081名による合唱、懇親会とパーティーはなし。ガバナー加納泉氏の点鐘で全日程を終了いたしました。

クラブ奉仕・会員増強部会

中山 信夫君

和田クラブ奉仕委員長の代理として、地区協議会「クラブ奉仕・会員増強部会」に出席してまいりました。

クラブ奉仕は、会員にとって魅力あるクラブ活動を、企画、運営する為の環境作りを行なうものであります。週一回、一時間の例会が、出席することが、より楽しく、有意義なものとなるよう、クラブ奉仕各委員長による会合をたびたび開催する必要があります。又その正副委員長は、新人とベテランとをうまく組み合わせ、円滑な運営が行なえるよう配慮することも良いのではないのでしょうか。

出席委員会には、出席がロータリアンの基本的な義務であることを徹底させることが必要であり、現在のクラブ出席率の1%向上に努力して下さい。又、無断欠席をなくし、止むを得ない場合以外の途中退席はなるべく慎しみ、又例会中の私言もエチケットとして、慎しむよう、会員の協力をお願いします。

次に、広報委員会は、クラブでの有意義な活動を、新聞社、テレビ局へ取り上げるよう働きかけて、ロータリー活動を広く理解される様努力して下さい。

雑誌委員会は現在「読まれざるベストセラー」と言われるロータリーの友をもって会員に読んでいただける様企画して下さい。又ガバナーズマンスリーレターについては現在地区会員数の半数程度の申し込みとなっているのを是非全会員に行き渡る様に購読に努力していただきたい。

又会員増強委員会には、現在の会員数の10%増員を旨とし、その会員は、品格の優れた人物を選考して、会員の質の向上を計る事が望まれます。

次期R1ダクターマン会長の「まことの幸福は人助けから」のテーマの下、千種ロータリークラブが魅力あるクラブであるように努力していきたいと思っております。会員の皆様方の御協力を宜しくお願い致します。

青少年奉仕部会

鈴木 理之君

今年度、地区協議会で青少年奉仕活動の第一目標は青少年に社会奉仕をすることを糧にしてより豊かな意義のある人生を送ることを理解させるようにとのことでした。

その一つの手段として、インターアクト・ロータリーアクトの活動をさらに発展するように援助・指導を行うべきである。両クラブの現状として特に名古屋地区ではほとんどその活動がなく早急にクラブ設立を促されました。

§ インターアクト

(名古屋 1クラブ; 市外 8クラブ)

§ ロータリーアクト

(名古屋 2クラブ; 市外 7クラブ)

又、両クラブ間の繋がりが無いのでインターアクトからロータリーアクトへ何如にして成長してゆくかが問題点として提起されました。

◇ 2760地区インターアクト地区協議会

平成4年7月26日(日) 豊田市民文化会館で開催
次にRYLAについて

Rotary Youth Leadership Awardsの略であり「ロータリー青少年指導者養成セミナー」と訳されています。RYLAは地区内の若い人々とロータリアンを参加させる地区のプロジェクトであり若い人々の指導及び善良な市民の資質を伸ばすことを目的としているそうです。当地区では来期実施予定で地区会議が催されます。

ロータリー財団部会

石黒 正則君

- (1) 星野次期委員長が議長を努め全体内容の説明
- (2) 加納ガバナーによるロータリー財団の基本理念の概要説明
- (3) 星野次期委員長によるロータリー財団の今日までの歴史と現況と未来(今後)について財団プログラムについて説明
- (4) 近藤副委員長からは従来の褒賞枠システムを改善し(1991-1992寄附年度より)新しいシェア・システム導入した事によるシステム説明
- (5) 成田敏國アシスタントリーダーによる奨学金の使われ方、集め方等の説明
- (6) 矢島茂財団学友会委員長からは、学友会の現況と課題について資料を元に説明
- (7) 加納ガバナーから最後に

各クラブへの報告として、寄附のお願いを速呼することより、ロータリー財団のすばらしさを、お伝え下さいとのアドバイザー所見がありました。

(8) 閉会

◇西尾 KIRARARC 認証状伝達式に出席して

山本 眞輔君

5月10日(日)西尾市文化会館において、加納泉ガバナー出席のもと行なわれました西尾 KIRARA ロータリークラブの国際ロータリー加盟認証状伝達式に、秋山会長のおともで出席させていただきました。認証状伝達式にはじめての出席でしたので大変よい勉強をさせていただきました。厳粛な式典と各種の記念事業の発表、お祝いの言葉、緊張のうちにもなごやかな祝宴、等々、新しいロータリークラブ誕生の息吹きを直接に感じることができました。特に私にとっては西尾地区は出身地であり、本当に有意義な時を過ごさせていただきました。厚く御礼申し上げます。

《雑誌の窓》

“ロータリーの友”4月号より横組みのページの第一にラジェンドラ K サブ R I 会長の寄稿が毎月のっておりますが、今回は“飢餓の王国からの使者”と題して、R I 指定記事がのっております。

“王様と空腹な男”の寓話より、飢えの恐ろしさを説いておられます。多くの人々にとって飢餓の現実は何もわかっていない。せいぜい新聞やテレビで世界のどこか遠い国で子供達が餓死していく姿をみて、ほんのひとときかわいそうと思う位でしょう。そういう子供達も人類家族の一人なのだと云う事を、私達は本当に分っているのでしょうか。飢餓と云う“怪物”と闘うために、彼等は私達の強力な支援を必要とします。「飢えた人々にとって神とはパン以外の何者でもない。」と故マハトマ・ガンジーは言っています。飢餓は遠い世界の問題ではなく、今日私達の身の廻りにも忍び寄ってきています。絶望的な空腹は、人間の尊厳を奪い、社会の土台をむしばみます。

この飢えは理性ではどうしようもありません。空腹のために死ぬか生きるか云う瀬戸際では、どんな哲学も役には立ちません。ものを云うのは食物だけです。

もし皆さん自身のささやかな犠牲が、何かこの飢餓緩和に役立つ事の出来る様な事があれば、ぜひ第一歩をふみ出していただけないでしょうか。

担当 尾関 武弘君

◇R I ニュースより

懇請状にご用心

最近、ナイジェリア政府およびナイジェリア中央銀行の最高幹部職員と一緒に、巨額の金をナイジェリア国外へ運び出し信用できる個人の銀行口座に移す計画に従事していると主張する人たちから手紙を受け取ったロータリアンが沢山います。その文面は、銀行口座を使用させてもらう代償としてそうした資金額に応じた分け前を提供すること、またそのための諸雑費を前払するというものです。

ナイジェリア中央銀行はこの計画とはまったく無関係で、同行の話ではこの手紙の懇請に応じた人たちには、資金は各自の口座に振込中との偽造文書が送られているということです。しかしそのような支払はこれまで一切行われていません。ナイジェリア中央銀行は海外のこのような手紙の受信者への「莫大な金銭的損失を受けるおそれのあるこのような申出には絶対応じぬように」との忠告文を報道機関発表記事として公表しました。

こうした手紙の多くは、その書き出しを“Dear Fellow Rotarian あるいは Rotaractor”とか、あるいはロータリアンが匿名で受信者の氏名を教えてくださいのことであり書きがありました。しかし、いやしくもロータリアンともあろう人物が多少ともこうした詐欺的行為に関与しているとは信じられないことです。

どうか皆さん、こうした手紙が出まわっていることに会員の注意を喚起し、併せて R. I. の規則はいかなる種類の懇請、勧誘も禁じていることに注意して下さい。

◇情報抄録より

逃げ出す前に2度考えよう

所属クラブに強い関心をもつロータリアンは例会出席によって自己のクラブ支持の熱意を示すでしょう。そういうロータリアンは他の人々の考えを自己開発の手段として重視し、毎週の例会スピーチを楽しみにするでしょう。今度例会を逃げ出したくなったら次のことを思い出して下さい。：例会出席は記録をつくるためではない、ロータリアンとして成長するためであると。

あるクラブ会報より

◇次回例会(5月19日)

“放送ドラマの周辺”

中京テレビ放送(株) 常務取締役

岡田 善吉氏 (紹介 鷺谷君)

◇次々回例会(5月26日)

“8020運動”

愛知学院大学歯学部 教授

中垣 晴男氏 (紹介 黒須君)